

(33) 田守神社 (たもりじんじゃ)

住所：三重県伊賀市腰山上出837

TEL：0595-52-0153

参拝日：2013年8月21日、2015年1月10日

【延喜式内社】

主祭神：別雷神

祭神：彦屋主思命、春田別命、建御名方神、事代主神、火之迦具土神、大綿津見神、白山比賣神、宇迦能御魂神、速玉之男命、三筒男命、六所大神、建速須佐之男命、大山祇神、大日竇貴神、五男三女神、大物主神、木花咲那媛命、市杵島姫命



鳥居と拝殿



手水舎



御神木

石段を10段上ると石の鳥居があり、その両側に御神木のスギとコウヨウザンの巨木がそびえている。本神社は二度に渡る天正伊賀の乱(1578-9年、1581年)でも焼失をまぬがれたそうなので、これら御神木の樹齢は400年をはるかに超えているものと思われる。当日は境内でどんど焼きが行われており沢山の参拝者に焼いた餅が振る舞われていた。拝殿は立派な唐破風のついた平入り造りで、本殿は春日造りである。その他境内を囲んで幣殿、神饌所、手水舎、社務所が配置されている。境内周辺にはスギ、シュロ、シラカシ、アオキ、ムラサキシキブ、アカガシ、ナンテン、ヒノキ、フユイチゴ、サカキ、チャノキ、タブ、ホソバタブ、ツガなどがみられる。境内掲示によると、10月29日に行われる秋祭りは有名で神社の神事後、鬼・機織・金幣・金鉢・合祀記念大幣・太鼓台・獅子・花笠・神輿等の行列が、神社から西の御旅所へ巡幸し神社へ帰って来るそうである。途中にある住吉橋で七度半の使いの儀式が行われた後、神社へ帰参し、境内では高箸神事が行われ、獅子神楽が奉納されるそうである。

祭 祀：例祭10月29日、 祈年祭2月25日、 春祭4月29日、 祇園祭7月13日、新嘗祭11月25日、その他年中恒例祭儀18回

宝物等：金幣金鉢（八基 祭礼供奉用）（享保三年）、石鳥居（延宝年間）、湯釜（安永年間）



本殿



拝殿

特記事項：

例祭には、輪番制による各字別年長者が奉仕する神輿を基軸に、神馬、金幣金鉢、祭礼頭屋、大人講、合祀記念等の大小御幣、獅子舞、小学一年生のボーロ（花傘）等々が供奉する渡御神事があり、近郊近在鄙にして稀にみる神社の古事と伝承を継承した祭礼である。その特異な行事として「貴箸」があり、これは当日の祭礼神事が恙なく奉仕できたことを神前に奉告寿ぎ、かつつ爾後の平安と更なる発展を祈る神事である。これら一連の祭礼行事は、氏子とか家からなる田楽講、馬苦勞講、慶成講、鶏鼓講、温然講等があり、祭礼当日にはそれぞれ12講の座が設けられ、かつ、祭礼神事に奉仕する。

由 緒（三重県神社誌）

当社の創祀については、詳らかにし難い。社伝によれば、当地の豪族伊賀氏族がその祖神と当地の産土神を合祀奉斎し、後長元年中に大字鍛冶屋宇吉田井上より現在の鎮座地蔵繩手の長平寺浦山に遷座したと伝えている。平安時代には『延喜式』に伊賀郡の小社として田守神社の名がみられる以外、史料に登場するものはない。

近世には古山七郷の惣社として人々の崇敬をあつめ、雷王・牛頭天王、八幡、熊野権現、恵比寿之宮筒井権現等の摂社を持ち11面観音堂をもあわせ持っていた。宮は梅母山吉田寺である。江戸時代末に至る迄吉田神社と称されていた。

明治に至り、現鎮座地には吉田神社 同境内社田守神社 同筒井神社 同八幡神社 同白山神社 同蛭子神社 同津島神社が鎮座していた。明治41年（1908）村内菖蒲池の村社住吉神社他無格社47社、その境内社10社と共に、村社吉田神社の境内社を同境内社田守神社へ合祀の上、田守神社と改称した。

昭和21年（1946）社格廃止。同年宗教法人として届け出、現在に至っている。